

新たな地域コミュニティ支援事業にかかる受託者等の評価結果について（令和元年度中間）

1 支援の内容及び効果等（1）

評価項目

「自律的運営に向けた地域活動協議会の取組（イメージ）」

- (1) 「Ⅰ 地域課題への取組」にかかる支援の提案内容等
- (2) 「Ⅱ つながりの拡充」にかかる支援の提案内容等
- (3) 「Ⅲ 組織運営」にかかる支援の提案内容等
- (4) 「Ⅳ 区独自取組」にかかる支援の提案内容等

評価	左記の理由
B	・ 支援員が積極的に地域訪問をした結果、様々な地域活動従事者とのつながりを作ることができ、地域情報、地域課題を把握し支援することができており、区長指定の6分野の活動が16地域で実施できている。 ・ 地域活動と接点の少ない子育て層や「防災」に関心のある地域のボランティア活動者を対象にした座談会の開催は、区社協や区ボランティア・市民活動センターと連携し、地域とうまくつなげられるように支援を期待する。 ・ 会計事務処理の課題について、「情報交換会」は「オリジナル会計ソフト」をテーマとして会計担当者を対象に2回開催した結果、開発した地域以外にも試行に協力する地域が複数出てきており、ほぼ完成の状態まで取り組みを支援し、これまでにない地域連携が新たに生まれた点について評価する。また、「補助金会計勉強会」を地域要望に応え2回開催した結果、部会担当者レベルで自主的にまちセンに働きかける動きがでてきたことや、決算報告書完成が可能になった点について、特定の会計担当者だけに負担がかかっていた業務について理解が進み、議論・検討する機運が高まりつつあり、自律度が進んできたものと評価する。 ・ 各地域の実施活動について、事業ごとにSNSで紹介をし、参加者・協力者を募集することが重要であり、広報の体制づくりに力を入れて支援されたい。 ・ 地域公共人材の活用について、適宜助言を続けてきた結果、積極的に受け入れる地域が出てきた点について、評価する。 ・ 新たな担い手発掘の課題については、「ボランティア・市民活動センター」と連携し、これまで地活協と関わりが薄かった層にも対象を広げて座談会「わがまち防災」、子育て層を対象とした子育て座談会「親子deリトミック＆ハロートーク」を開催し、新たな参加者が増えてきている点について評価するが、忙しい子育て層が地域にどのように関われるのか、期末に向けた課題と考える。 ・ これまで関わりを持たなかった住民や団体等の参加促進に向け、まちづくりセンター発信の事業を計画的に進めており、特に第3回目の「企業・NPO・学校・地域交流会」は、「参加者の強みを生かしたコラボレーション」をテーマに開催し、参加企業等に地活協の理解を得ることができたと考え評価する。地活協とつながる道筋ができつつあり、今年度2回目の開催も決定しており、その進展に期待する。 ・ 各種事業実施等の情報について、すべての地域で広報紙やポスターで周知で

	きている点は評価するが、SNSの活用が十分でない地域があり、更新回数に大きな差がある状態を解消する必要がある。 ・地活協外部の団体との連携・協働は、SNSでの継続的な紹介が重要であり、後継者の発掘にもかかわることであり支援を強めてもらいたい。 ・予算・決算総会について、総会開催結果をSNS等で公表できるよう支援する必要がある。 ・コミュニティ回収について、昨年度末に先行実施した地域の実施結果報告会を開催したことにより、実施に向け検討する地域が複数出てきており、支援について評価する。 ・1地域で独自の会計事務処理ソフトがほぼ完成に近づき、他地域の会計担当者有志に試行してもらう状況にまで至ったのは、まちづくりセンターの支援あってのことであり評価する。会計処理、予算・決算の省力化に大きな成果が期待されるだけでなく、販売を目標にして進めている点について、CB/SBの実施への支援であると考えられ評価する。
--	---

2 支援の内容及び効果等 (2)

評価項目

(1) 自由提案による地域支援の提案内容等

(2-1) スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まちづくり支援員の体制にかかる提案内容等

(2-2) フォロー(バックアップ)体制等にかかる提案内容等

(3) 区のマネジメントに対応した取組にかかる提案内容等

評価	左記の理由
B	・各地域の実情に応じた支援を地域に寄り添いながら実施していると評価するが、支援の手厚さにかまけて自律度が上がらないということがないように、また次のステージにステップアップできるように、支援のあり方を工夫されたい。地域間格差を埋めるため、順調な地域への支援軽減も考慮する必要がある。 ・区民の関心が非常に高まっている「防災」をテーマにして進めていることが、現在の地域活動の従事者以外の新たな参加につながってきており有効であると考ええる。 ・1支援員に不在期間が発生したが、地域から特に苦情等が入ることはなく、他の支援員でカバーできた。

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)の状況及び効果等

評価項目

区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)にかかる提案内容等

評価	左記の理由
B	【「城東区ボランティア・市民活動センター」との連携】 ・関心が非常に高まっている「防災」をテーマにして進めており、現在の地域活動の従事者以外の新たな参加につながってきており有効であると考え評価する。

	【スキルアップのための学習会や情報交換会、相談会などの開催】 ・参加する地域や人をもっと増やすことにも工夫を凝らして取り組む必要がある。 【企業・NPO・学校等 多様な主体とのつながりづくり、連携・協働の推進】 ・当区では進展してこなかった交流スタイルであるが、テーマ型団体を含めた活動は、地域の将来的な発展になくてはならない取り組みであり、今後に期待する。 【まちづくりを考える場づくりの実施】 ・子育て層に地域との関わりについて理解を得ることは、将来に向けた先行投資として必要性は認識されつつも、これまで継続した取り組みができていなかったものであり、新たな担い手確保の取り組みとして評価する。 【会計事務の簡素化・負担軽減に向けた支援の充実】 ・地域格差が大きくなってきている実態を考慮し、効果を上げるために参加地域・参加者のスキルに応じた開催スタイルを検討されたい。 【CB/SB、自主財源の確保についての支援の実施】 ・「コミュニティ回収」の実施について力を入れて支援を行っており、今年度中の実施に向けて準備にかかる地域が数カ所出てきており評価する。 【地域活動協議会に関する広報】 ・区広報紙における各地域会長インタビュー記事掲載については、地活協活動に対して広く理解を得るために周知することができ、また記事内容も興味を引くものとして評価する。
--	---

4 総合評価【全体】

評価	左記の理由
B	・当区の今年度目標に向けて、支援により進捗していると評価するが、期末に向けて次の点に注意して取り組んでもらいたい。 ・城東区の地域特性として、信頼関係が築けていなければ本当の声をくみ上げることができないという特徴があると認識しており、支援員の地域訪問が強く要望されていることについて理解するが、一方でそうした支援の手厚さにかまけて自律度が上がらないということにならないよう支援のあり方に工夫をしてもらいたい。 ・新たな参加・参画を生み出すため、既成事業の実施以外に新たな要望にも応えられるような情報や選択肢を提供できるようにしてもらいたい。 ・防災をテーマにするなどして、マンション住民が地活協と関わりをもつことができるような取り組みを進めてもらいたい。

(評価基準)

S：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を大幅に上回っている。

A：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を上回っている。

B：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準に概ね達している。

C：各区の当該年度の戦略に基づいた支援内容や目標の水準を下回っている。